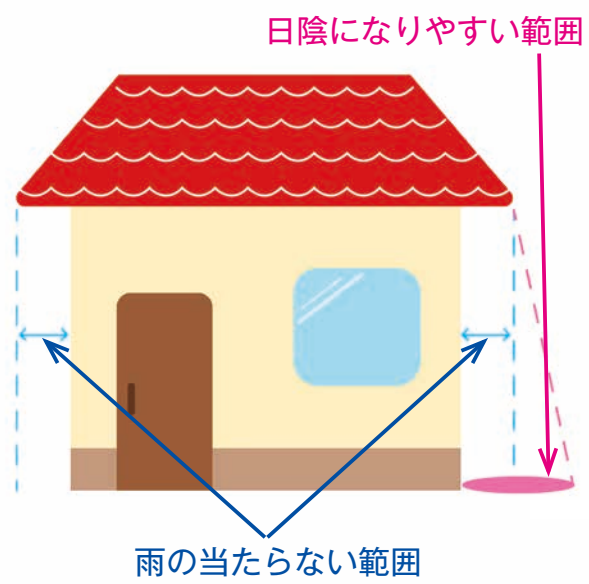


「優良な緑化計画を立てるためのポイント」

優良な緑化計画に共通して多く見られるポイントをまとめました。
魅力ある施設づくりの参考にしてください。



＜維持管理を見据えた植栽＞

植物の生育要件には「日当たり」や「降雨量」、「風当たり」などがありますが、植物によって重視するポイントは異なります。

植物を選ぶ上で植物の生育環境も踏まえて検討すると、その後の維持管理が容易になります。

また、地域に元々ある植物の多くは、その地域の環境に合ったものです。そういった地域の緑との連続性を意識すると、まとまりのある、より保ちやすい植栽になります。

＜接道部における緑の活用＞

接道部には生け垣などの植栽を設けることで、圧迫感を抑えつつ施設と道路の間を分離することができます。ブロック塀などの人工物に比べ、安全性が高いこともメリットのひとつです。

その際、手前に低木、更にもうその手前に草花や芝などで緑化すると、見通しが良く、奥行きのある緑化になります。



＜緑の効果が十分に発揮される緑視率＞

国土交通省が実施した調査で、景色の中で緑が見える量（緑視率）が高まるにつれ、潤い感、安らぎ感、さわやかさなどの心理的効果が向上するということが分かりました。

緑視率は、25%以上で「緑が多い」と感じることも分かっています。

公開空地など人の目につきやすい場所を緑化する場合などは、高木などを活用し緑視率を高めることで、緑の効果が十分に発揮できます。